

藤 支 発 8 0 8 号  
平成 2 8 年 1 1 月 4 日

保護者 様

大阪府立藤井寺支援学校  
校 長 橋 本 輝 幸

## 平成 2 8 年度 第 2 回学校協議会について（報告）

平成 2 8 年 1 0 月 2 6 日（水）に開催致しました学校協議会の要旨を報告致します。

**協議会会長：**安元 祥二（学校法人関西金光学園関西福祉大学金光藤蔭高等学校 校長）

**協議会委員：**松宮 圭伺（藤井寺市立藤井寺小学校 校長）

小畑 宜寛（社会医療法人医真会 介護老人保健施設あおぞら 事業部 副部長）

竹澤 住江（卒業生保護者 しゅらの郷福祉会理事 支援センターしゅらの郷管理者）

梶ヶ山 叶（藤井寺市民生委員 児童委員協議会）

梅原 佐保子（PTA会長）

\* 敬称略

### 1 開会

- ・配布資料の確認
- ・挨拶 校長 橋本 輝幸

### 2 報告

① 平成 2 8 年度 進路状況について（進路指導部長）

- ・高等部 3 年生の進路先内定 1 5 事業所 3 年生全員の決定は 1, 2 月となる。
- ・今年度より 6 月、中学部保護者対象に進路説明会を実施した。よい成果となり夏季施設見学  
に中学部保護者の参加が 1 3 名（昨年 1 名）と増加した。進路に対する早めの意識ができる  
よう今後も進路決定に係る啓発の説明会を継続していく。
- ・近年の傾向としては、複数の事業所を併用して卒業後の生活を計画されるようになっている。

② 平成 2 9 年度 教科書選定について（首席）

- ・実物教科書の展示を行う。
- ・小学部・中学部・高等部で教科書が重複しないように選定している。

③ 部主事懇談について（中学部 部主事）

- ・保護者から出された要望や意見について改善できるものは早急に対応していき、課題になるこ  
とは関係部署で審議していきたい。

④ 授業アンケートについて（教頭）

- ・9 月実施分の結果については、既に家庭配布済み。授業参観していただいた保護者からのアンケ  
ートとなっているので、学校も結果を励みに今後も児童生徒にとってよい授業を実践していきたい。

⑤ 学校教育自己診断アンケートについて（教頭）

- ・現在、アンケートを実施し回答を収集中。自由記述のできる様式もあわせて配布している。集計後  
には、ホームページにも掲載予定。

### 3 協議

① 本校の学校経営計画および学校評価について（校長）

（1）今年度の進捗状況

- ・「スパイダーマニュアル 第 2 版」を作成した。本校教員がわかりやすいようにすること

と、事例の紹介と他校との情報交換を目的としている。

- ・11月開催の全国肢体不自由教育研究会で、スパイダーを活用した校内の運用体制作りについてポスター発表を行う予定である。
- ・スパイダーでの「ヨガハンモック」もPTAと協力して購入していただき、かなりの活用がある。児童生徒の自立活動には非常に有効であり、効果が現れている。
- ・学期初めの給食開始日を早め授業時間の確保に努めている。
- ・コミュニケーション力の向上をめざした授業作りを本校の大きなねらいとし全校で取り組んでいる。現在、新様式の授業指導案を試行し、校内授業研究を実施している。その際、児童生徒のコミュニケーション力の実態把握を共通のチェックリストを指標に課題設定し、授業実践に効果的なものになるよう協議している。
- ・昨年度に引き続き職場環境アンケートを実施し、現在集計中である。定点観測による課題状況や新たな課題を検討していく予定である。
- ・移行支援計画の活用について、平成27年度卒業生対象にアンケートした結果、11人中7人の活用であった。また、13事業所の聞き取り調査を実施したところ、移行支援計画の存在を知らなかったという新設事業所もあったが、必要であると回答いただいたのは10事業所であった。今年度卒業生にも、保護者をとおり事業所へ手渡しできるよう依頼していく。
- ・地域支援としては、南河内ブロックの各市町村の課題に対し、各市町村教育委員会とリーディングチーム及び支援学校との連携を強化して取り組みを行っている。
- ・今年度は年間を通し、危機管理対策として「本校の安全に係る課題と改善策」について、学校保健委員会のテーマとして協議しながら取り組んでいる。

#### 質疑応答

(PTA) 学校自己診断の設問で「学校は」とあるが、現在所属している「学部」としての設問のほうがわかりやすい。

(会長) 学校によって保護者の考え方も様々である。ここは小中高の一体感があるので、ご意見を参考にしてみてもどうか。

(校長) 次年度検討して改善を加えていきたい。

(教育) 子どもの課題はわかるのだが、「ついた力を評価すること」は容易ではない。現状把握の明確化は大事である。自己有用感が低かったり自信が持てない子どもが増えているように思う。教員は子どものできるようになったことの振り返りや変化をきちんと情報共有していくことが大切である。

(校長) 本校の通知票の評価の記載についても、どのような力が伸びたのか、どのような力がついたのか記載できるように努めている。

#### (2) 本校における安全対策について (校内保健委員会・保健部長)

- ・過去のデータより事故の多い時期や原因について分析したり、校内研修やヒヤリツイート週間の実施等の対策を行っている。改善策として、衝突の可能性の高い場所である保健室前交差廊下にラインを引いたり「止まれ」の文字を表示した。また、PTAの協力で教室前に靴箱を設置して、廊下の環境整備に努めることで安全に車椅子走行できるようにした。年間3回のヒヤリツイート週間の実施と共に、今後も危険因子をなくす対応策を検討しながら改善して行きたい。
- ・PTA中心に各家庭で「災害時袋」の作成依頼を発信していただいているが、今年度学校へ持ってきている家庭は1割程度であるのが現状である。一方で、災害時の家庭との

連絡に関する全校一斉配信メール及びホームページでの配信等の体制構築を進めている。

- ・地域自治会との連携は継続中である。今年度4月には、共同避難訓練を実施できた。

(PTA) PTAでは、本人の意思を伝えにくい子どものために “SOS～私の助け方～”の作成を推奨している。また、災害時に救助する誰でも直ぐに使えるものと考えて備蓄品を選んでいる。今後は、学校総務部と一緒に管理・推進していくこととなった。課題としては、放課後等デイサービスの利用時を含めた「自助力」の向上啓発を行っていくことである。

#### 質疑応答

(教育) 自治会合同避難訓練での地域との協力を教えて欲しい。

(校長) まずは、地域の方に本校児童生徒の様子を見て、知っていただくことから始めている。

(地域) 地域の方は支援学校には目を向けておられるが、どう関わってよいのかわからないのが現状である。子どもの様子を知ってもらうためにも、校内の場所を見るところという参加の方法からお願いしている。できるだけ同じ地域の方に学校へ出向いてもらうことでお互いの顔を知ることができることが大切だと思っている。

(会長) 地域の方が災害時にサポート役として活動できるような地域資源でもある。そのために、車椅子の押し方、子どもへの接し方、教師のサポートにどうつくのか等を視野に入れた研修やかかわり方が学べる機会も考えていってみてはどうか？

(校長) 本校は避難所に指定されているが、避難所としての運営については市、自治会との連携を今後の課題としている。

(PTA) 避難所となっている本校の備蓄品に関わるので、地域の方の状況(医療的・要介護食等)についても情報共有も必要となってくるのではないかな。

(教育) 災害発生時において、教師はもちろん地域の方の力は大きいので大切にして、積極的に連携していくことが必要である。藤小でも3地域自治会合同避難訓練を実施したところである。

(会長) ヒヤリハットになるまでのさらに小さなことを事前に、場面設定して拾いあげることができるとういだろう。また、危険因子の分析に関しては、場面ごと、場所、時間帯等で集計してみるとさらによい。

(医療) 医療現場でも早くから同じようなヒヤリハットと提出や分析を行ってきたが、事故の発生状況はほぼ同じである。発生を減らすには、報告書を書いている間に自身が分析できるものでなくてはならない。それを本人が周囲に発信できることが大切である。やはり、分析できる様式であることが必要であろう。

また、視覚化することが、情報共有には有効である。発生現場の写真を添付して(場面の再現)校内研修で有効に活用してみてもどうか。事故要因が情報の共有やセルフチェックであることが多いので、「指さし呼称」が一番推奨されており、効果的である。支援学校間で同じ担当者通しのネットワークの構築ができるとさらによい。

## 4 まとめ

### 閉会